

消費者動向調査 No.124

テーマ「夏のボーナスに関する調査」

- ◆ 調査時期 2019年5月
- ◆ 調査対象 福岡県内のボーナスがある家庭の500人
(うち男性243人、女性257人)

- ◆ 回答者区分

A.年代

	%
20代	15.4
30代	24.6
40代	20.0
50代	20.0
60代	20.0

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	70.8
妻だけ	9.6
両方	19.6

※当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。

西日本シティ銀行
NCBリサーチ&コンサルティング

[調査結果本文]

内閣府は5月の月例経済報告で、「景気は、輸出や生産の弱さが続いているものの、緩やかに回復している。」と発表しています。先行きについては、「当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響に一層注意するとともに、中国経済の先行き、海外経済の動向と政策に関する不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。」としています。

このような中、消費者はこの夏のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、夏のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の家庭を対象に夏のボーナスについての消費動向をたずねました。

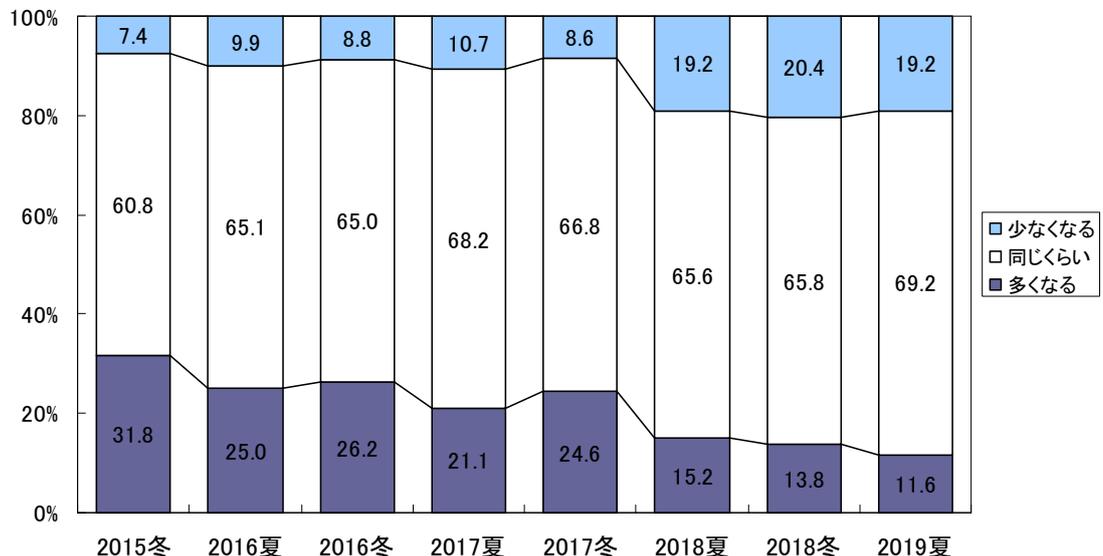
なお、女性の就業率や共働き世帯の増加を背景として、2018年夏の調査より調査対象者を男性・女性（従来は女性のみ）としたほか、調査方法をインターネットによるアンケート（従来は文書）回答方式に変更しています。

そのため、従来に比べデータが大きく変動している設問がありますが、調査方法の変更に伴う補正は行わず、単純な比較を実施しています。

◆ 今年の夏のボーナス、昨年より「多くなる」は11.6%。

夏のボーナスが昨年より「多くなる」と予測する割合は11.6%となった。「少なくなる」は19.2%、「同じくらい」は69.2%であった。

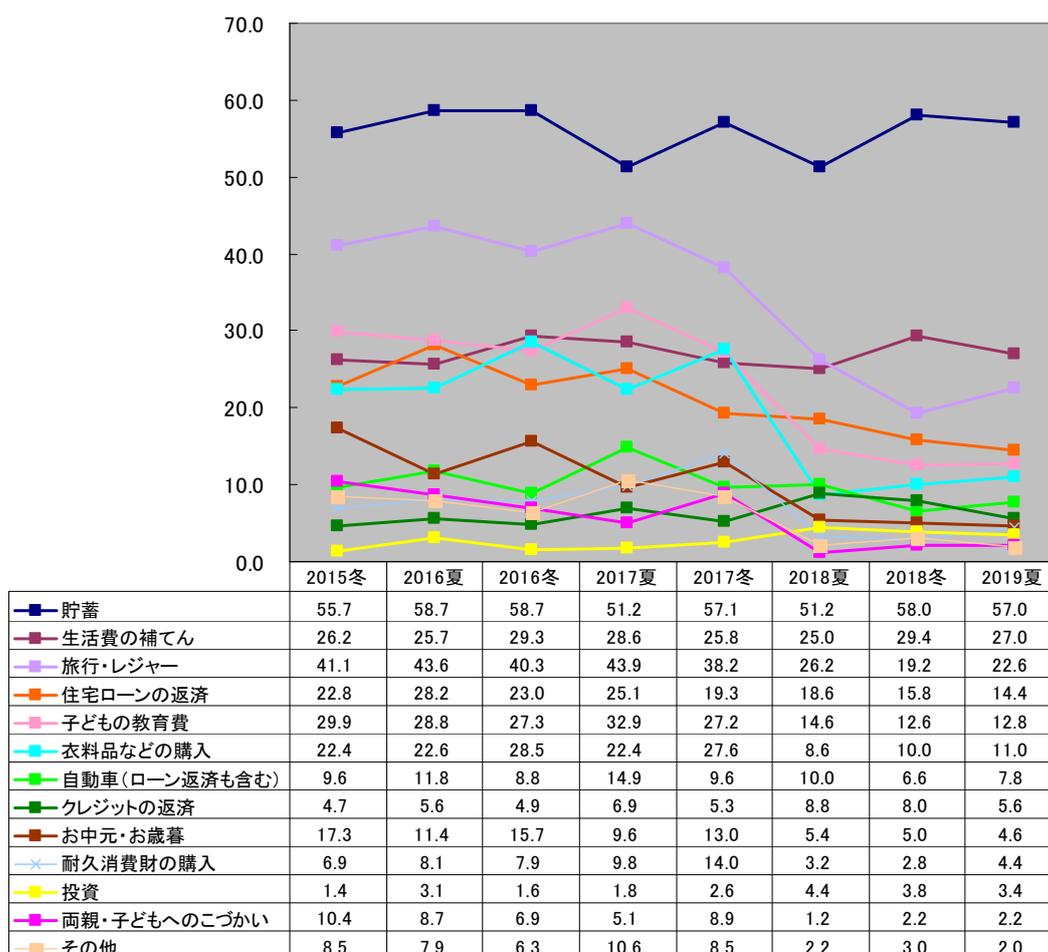
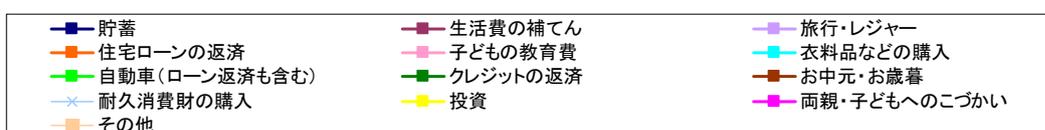
[グラフ1：今回の夏のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか]
(単位：%)



◆夏のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で57.0%。2位は「生活費の補てん」で27.0%。

夏のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で57.0%。2位は「生活費の補てん」で27.0%。3位は「旅行・レジャー」で22.6%となった。

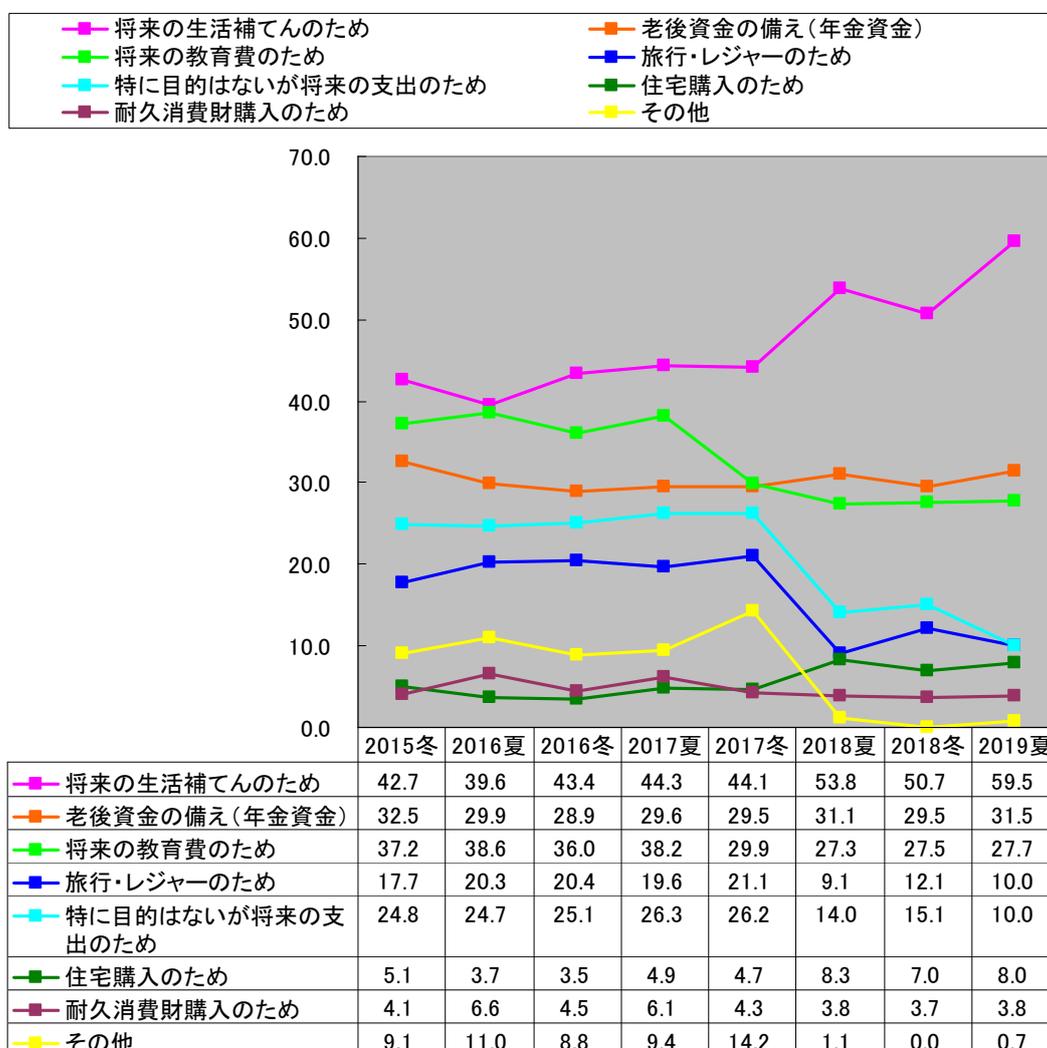
[グラフ2：今回の夏のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）] (単位：%)



◆ボーナスを貯蓄・運用する目的、1位は「将来の生活費補てんのため」で59.5%。2位は「老後資金のため」で31.5%。

夏のボーナスを貯蓄する目的の1位は、「将来の生活費補てんのため」で59.5%。2位は「老後資金のため」で31.5%。3位は「将来の教育費のため」で27.7%であった。

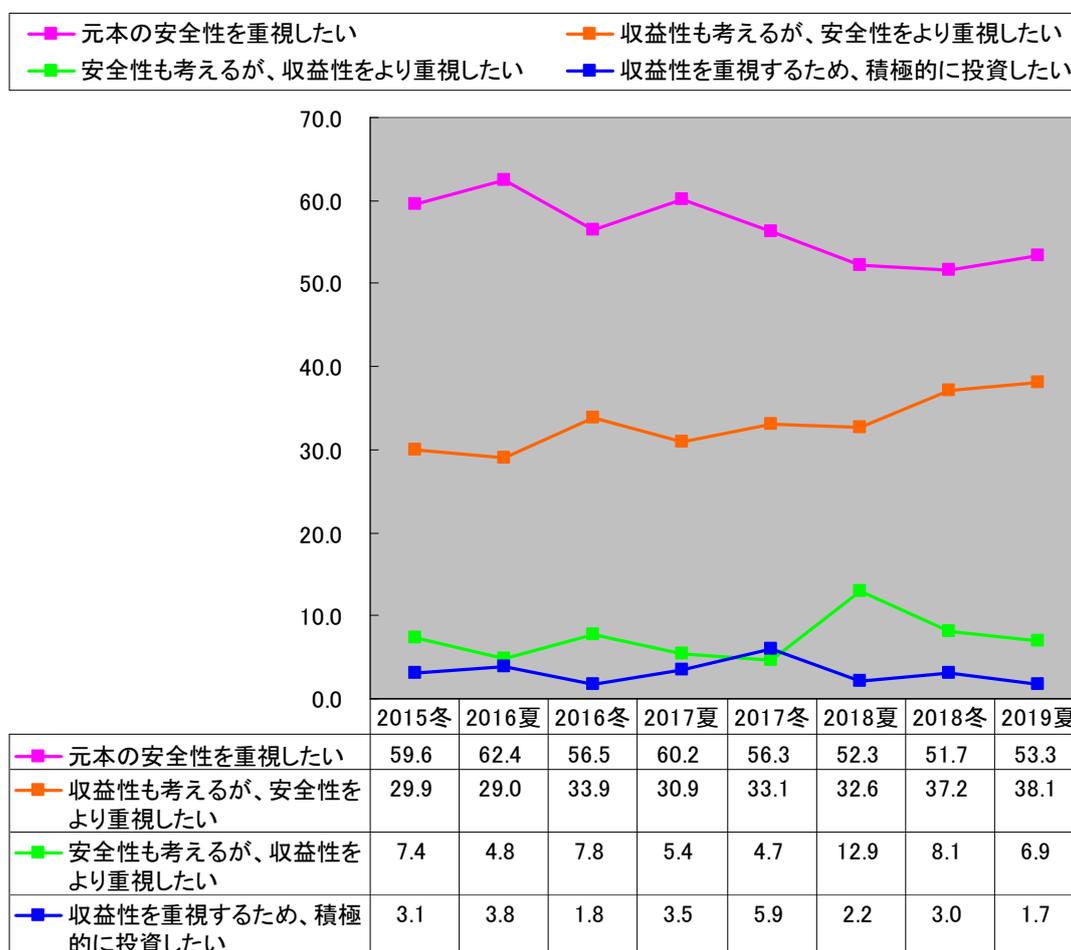
[グラフ3：将来の何のために夏のボーナスを貯蓄・運用しますか（2つまで）]
(単位：%)



◆夏のボーナスを貯蓄・運用する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が1位で、53.3%。

「元本の安全性を重視したい」が53.3%で、18期連続の1位。「収益性も考えるが安全性をより重視したい」が38.1%。

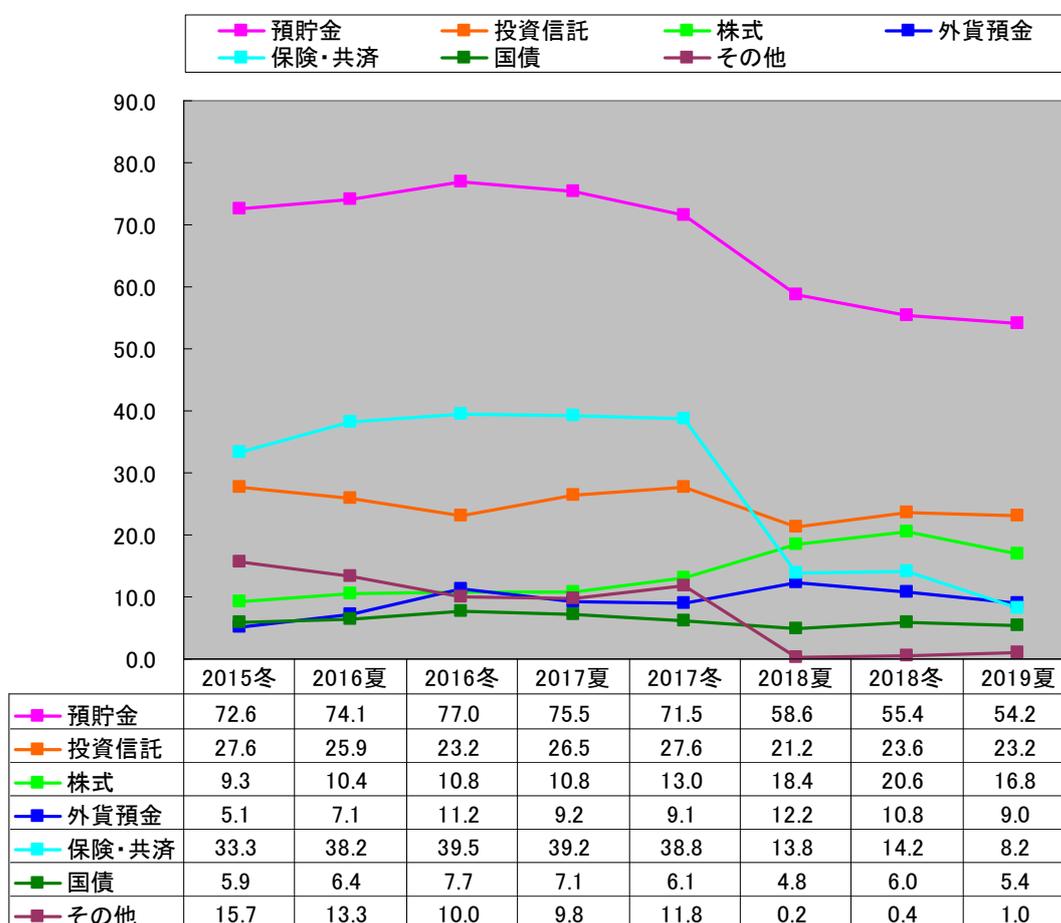
[グラフ4：夏のボーナスを貯蓄・運用する場合、あなたの考えに近いのは]
(単位：%)



◆関心がある金融商品、1位は「預貯金」で54.2%

現在関心がある金融商品は「預貯金」が54.2%で1位。2位は「投資信託」で23.2%。3位は「株式」で16.8%であった。

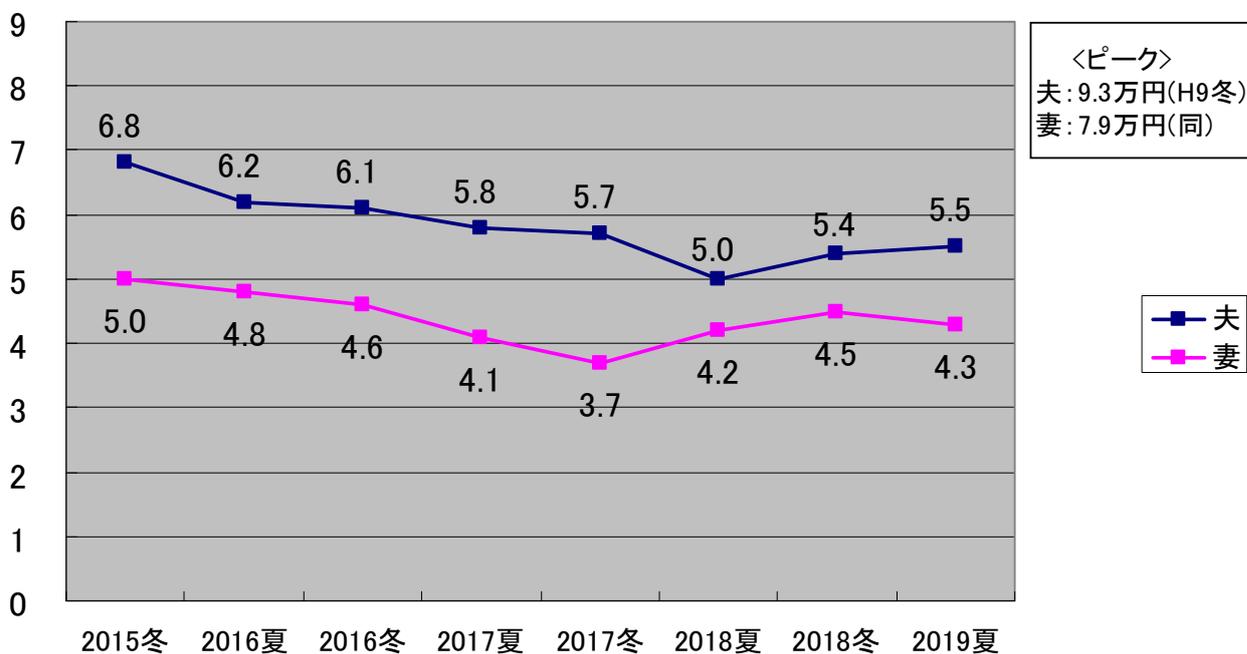
[グラフ5：どのような金融商品に関心がありますか（いくつでも）]（単位：%）



◆夏のボーナス、夫が自由に使える金額は平均 5.5万円。妻が自由に使える金額は平均 4.3万円。

夏のボーナス、夫が自由に使える金額は平均 5.5万円。妻が自由に使える金額は平均 4.3万円。

[グラフ6：夏のボーナス、自由に使える金額はどれくらいですか]
(単位：万円)



この調査に関するお問い合わせ先
 西日本シティ銀行 広報文化部 長谷川 TEL 092-461-1869
 NCB リサーチ&コンサルティング 調査部 原 TEL 092-476-3051